全国青パトフォーラム in 大阪

関西発！青パトのおもろい活動

青パトで築こう地域の絆、支え合おう地域の安心・安全

【実施報告書】

2013年3月

日本財団　公益・ボランティア支援グループ公益チーム

はじめに

2012年3月17日（土）に、全国で初めて青パトフォーラムの開催を行った。本フォーラムは、各地域で青色回転灯装備車（通称:青パト）を活用しながら自主防犯活動を行っている団体や個人を対象として開催し、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地から約200名の方々に参加をいただいた。第１回目は、東京で開催し、全国的に共通の課題である人材育成と活動費用について、議論を深めた。犯罪心理学を研究されている科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室長 島田貴仁氏を講師に招き、日頃の防犯活動が犯罪抑止力に効果的であることを科学的な視点から説明されたことで、パトロール活動の重要性を再確認することができた。このように第1回目のフォーラムでは、課題や各地のユニークな活動事例を共有した。

フォーラム後には、青パト活動の意義についてＰＴＡや自治会等と再度話し合いの機会を設け、協力体制を整えることによって、子どもの見守り活動だけに留まらず、独居老人の訪問等にも活動を広げた団体が多く見受けられた。しかし一方で、まだまだ人材育成や活動費用等の面で苦戦している状況があり、当財団では、継続的にフォーラムを開催し、情報共有を図っていくことで、ネットワークを構築させ、都市部における青パト活動の活性化を図っていく。

第2回目のフォーラムでは、大阪を開催地とし、行政や警察を含め、地域の防犯活動に関わる関係者が一堂に会し、「地域ネットワーク」をキーワードに議論を深めることにより、青パトを通じて広げる地域活動について考えることとした。特に、2012年度から大阪府が青パト装備品の無料配布を始めたことを受け、この機会に、より多くの方々に青パト活動に興味をもってもらい、警察と防犯団体との連携を強化していただきたいと考え、本フォーラムに以下の目標を設定した。

目　標

・都市部の青パト活動の活性化を目指す。

・先駆的な活動事例報告を通して、課題に対する解決策のヒントを見つける。

・現状を交換し合い、活動上の悩み等を共有し、改善・解決につなげる。

・地域のつながりのきっかけとし、全国各地の防犯ネットワークを築く足掛かりとする。

1．名　　称：全国青パトフォーラム in 大阪
「青パトで、築こう地域の絆、支え合おう地域の安心・安全」
～関西発!　青パトのおもろい活動～

2．日　　時：2013年3月9日（土）13：00～16：50

3．会　　場：大阪国際交流センター　２階　会議室さくら東西、第A～D会議室

4．主　　催：日本財団

5．後　　援：警察庁、大阪府、大阪府警察、大阪市、堺市

6．参加者数：282人（105団体／243人、来賓他）

7．プログラム

13：00　開会宣言

主催者挨拶　尾形 武寿 (日本財団 理事長)
来賓挨拶　池永 公一 (大阪府警察本部 生活安全部府民安全対策課 管理官)

13：15　日本財団助成事業について
高木 萌子　(日本財団　青パト担当)

13：20　事例発表　「現場の課題を解決するための方法について」
桝谷 佐千代（奈良県 橿原市金橋小学校区地域福祉推進委員会 会長）

13：40　基調講演　「地域ネットを広げるためのヒント」
小俣 謙二　(駿河台大学 心理学部 教授)

14：30　休憩

14：50　分科会
Ⅰ.人材育成について
Ⅱ.活動費用について
Ⅲ.安全マップの活用について
分科会講師:梶木 典子(神戸女子大学 家政学部 准教授)

15：50　終了

16：10　分科会全体報告

16：30　講評
小俣 謙二（駿河台大学 心理学部 教授）

16：50　閉会

17：15　懇親会

参加者リスト

参加者集計

カテゴリー	所在地	団体数	人数	備　考
		参加	参加	
防犯団体	大阪府	54	141	
	奈良県	12	30	
	和歌山県	1	3	
	三重県	1	2	
	京都府	1	1	
	滋賀県	3	3	
	兵庫県	7	17	
	関西以外	26	43	13県
その他・個人参加		―	3	
警察・行政関係		―	39	
合　計		105	282	

参加者一覧

地域		参加者・団体名
神奈川県	横浜市	個人参加
静岡県	袋井市	袋井市防犯推進協会
岐阜県	恵那市	大井町地域防犯パトロール隊
〃	〃	かさぎ町地域安全パトロール隊
〃	可児市	帷子自治連合会　帷子防犯パトロール隊
〃	岐阜市	芥見地区の安全を守る会
〃	高山市	下岡本町内会防犯パトロール隊
愛知県	名古屋市	大高学区連絡協議会
富山県	富山市	安全企画センター
石川県	金沢市	金沢市小立野校下防犯委員会
京都府	京都市	川岡防犯推進委員会
滋賀県	大津市	真野北学区自主防犯推進協議会
〃	東近江市	長峰自治会連合会防犯部（長峰安全まちづくり協議会）
〃	栗東市	下戸山SS会
大阪府	泉大津市	泉大津市防犯委員会
〃	茨木市	個人参加
〃	〃	茨木市防犯協会茨木支部
〃	〃	茨木市防犯協会玉櫛支部
〃	〃	茨木市防犯協会中条支部

参加団体一覧

地域		参加者・団体名
大阪府	大阪市	個人参加
〃	〃	大阪府猟友会
〃	〃	関西警備保障
〃	〃	鴫野連合自治会
〃	〃	城東区諏訪4丁目
〃	〃	住之江区加賀屋連合振興町会
〃	〃	住之江連合防犯パトロール隊
〃	〃	住吉防犯協会
〃	〃	大桐連合振興町会
〃	〃	塚本地区防犯会
〃	〃	鶴見北青色防犯パトロール隊
〃	〃	鶴見区青色防犯パトロール隊
〃	〃	トーホーセキュリティーサービス
〃	〃	浪速防犯協会浪速支部
〃	〃	日東連合
〃	〃	茨田青色防犯パトロール
〃	〃	山之内スマイル協議会
〃	〃	横堤青色防犯パトロール隊
〃	〃	淀川防犯協会
〃	河内長野市	加賀田中学校区青色防犯パトロール隊
〃	〃	南花台防犯協力隊
〃	〃	美加の台防犯協力見守り隊
〃	堺市	錦西校区自治連合協議会
〃	〃	錦西青色パトロール隊
〃	〃	チーム・スピリット
〃	〃	晴美台校区自治連合会
〃	〃	南区新檜尾台
〃	〃	南区高倉台西校区自治連合会
〃	〃	三原台校区自治連合会
〃	吹田市	吹田防犯協議会東山田支部
〃	〃	千三地区自治団体協議会
〃	〃	千里新田地区まちづくり協議会
〃	高石市	取石小学校区地域安全センター
〃	富田林市	高辺地域連携ネット
〃	寝屋川市	寝屋川市南小学校青色防犯パトロール隊
〃	東大阪市	小阪校区自治連合
〃	〃	シャトー第2八戸の里自治会
〃	〃	長瀬東防犯パトロール隊
〃	〃	布施防犯協議会石切東地区防犯委員会
〃	〃	布施防犯協議会新家支部
〃	〃	布施防犯協議会太平寺支部防犯委員会
〃	〃	布施防犯協議会長栄寺防犯青色パトロール隊
〃	〃	布施防犯協議会西高井田防犯青色パトロール隊
〃	〃	布施防犯協議会東高井田防犯青色パトロール隊
〃	枚方市	枚方市立舟橋小学校区　ふなっ子サポート隊

参加団体一覧

地域		団体名
大阪府	南河内郡河南町	ブルーガードしらき
〃	〃	ブルーガードだいほう
〃	箕面市	箕面市立中小学校区青少年を守る会
奈良県	生駒市	地域安全推進委員　東生駒支部
〃	橿原市	金橋小学校区地域福祉推進委員会
〃	〃	金橋小学校区地域福祉推進委員会担当
〃	〃	地域安全推進委員葛本支部葛本交番地域
〃	〃	十市団地自主防災会
〃	〃	新沢小学校区地域福祉推進委員会
〃	〃	真管地区地域安全推進協議会地域安全パトロール隊
〃	葛城市	新庄小学校東地区安全安心パトロール
〃	御所市	秋津防犯協会
〃	奈良市	奈良市二名地区自主防災・防犯会
〃	〃	伏見地区自治会連合会若葉台第三パトロール隊
〃	北葛城郡上牧町	西大和6自治会連絡会
三重県	松阪市	松坂市市民活動団体楽笑会
和歌山県	和歌山市	高松子ども見守り隊
兵庫県	明石市	明石防犯協会
〃	尼崎市	司福祉協会
〃	神戸市	スマイル防犯パトロール隊
〃	〃	星和台連合自治会
〃	〃	ふくろう
〃	西宮市	近畿警備保障
〃	三木市	中古川防犯グループゆずり葉
岡山県	岡山市	庄内学区安全・安心ネットワーク
〃	倉敷市	倉敷西阿知防犯連合会
〃	総社市	西部地域安全推進協議会
〃	玉野市	田井地区ご近所スクラム隊
〃	都窪郡早島町	早島交番自主パトロール隊
広島県	広島市	地域安全協会
山口県	山口市	じゃがいもの会
香川県	高松市	太田地区コミュニティ協議会
〃	〃	東植田校区　コミュニティ協議会
〃	小豆郡土庄町	小豆島清掃社　防犯パトロール隊
福岡県	朝倉市	朝倉市十文字中学校区青少年育成協議会
〃	筑紫野市	天拝坂コミュニティーパトロール
〃	福岡市	西高宮校区ミニパト隊
鹿児島県	出水市	米ノ津地区安全パトロール隊
沖縄県	中頭郡北谷町	砂辺青色回転灯パトロール隊

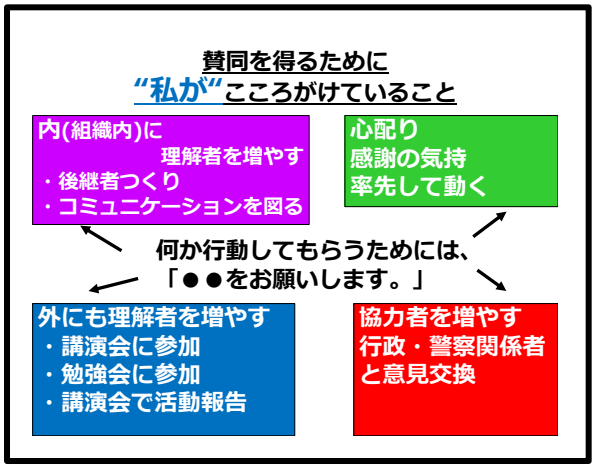
※NPO法人等の法人格は省略しました。

現場の課題を解決するための方法について
桝谷 佐千代（奈良県 橿原市金橋小学校区地域福祉推進委員会 会長）

桝谷氏の発表

人材育成と活動費用が現場の課題とされている中、多くの地域住民に理解を得て、活動を行っていくことが必要である。
周りの人に活動について理解を深めてもらうには何をすればよいのか。どうすれば協力者が増えていくのかという点について、実際の活動を事例として発表した。

※使用スライド（抜粋）



2004年より、安全・安心なまちを目指し、地域みんなが支え合い協力して活動するための組織として、金橋小学校区地域福祉推進委員会が設立された。
当初は、歩きでの見回り活動を行っていたが、2004年に起こった*楓ちゃん事件をきっかけにして青パトを利用した活動に取り組むようになった。しかし活動を開始するにあたり、防犯活動の重要性については理解できるが**「何故、自己負担でやらなくてはならないのか?」「どうして自分の車を出さなくてはいけないのか?」**等の意見があり、しっかりとした説明と活動に対する理解を求める必要があった。まずは、警察や地域福祉推進協議会の方々との話し合いを重ね理解者を増やし、ＰＴＡへの協力依頼を行った。自治会員の家を一軒一軒回って、交渉をしたこともある。そういった努力の末、ＰＴＡや地域の方々の理解を得ることができ、個人車26台にて、毎日の見守り活動を行う基盤を整えることができた。周囲の理解を得るためには、常に感謝の気持ち持つこと。また相手に期待するばかりではなく、自分が率先して活動をしていく必要があるということを発表した。

*楓ちゃん事件とは、2004年11月に、帰宅途中の小学校1年生の女子児童が誘拐され、のちに遺体で発見された、誘拐殺人事件である。

奈良県橿原市金橋地区について・・・・
橿原市は、日本太古の大和文化の発祥地として、市内には文化財等の歴史的遺産が点在している。また交通網が発達しており、大阪から30～40分、京都からは1時間、名古屋からは2時間と古代から交通の要となってきた。金橋地区は、市内で2番目に人口が多く、団地、新興住宅地、旧村住宅地が混在している。近隣には、京奈和自動車道が走っており、24時間営業の大型店舗があることから、犯罪が多発している。

地域ネットを広げるためのヒント
小俣 謙二（駿河台大学 心理学部 教授）

小俣氏による講演

「安心・安全な街づくり」を行っていくためには、地域住民が地域について知り、考える環境をつくることが重要であり、**地域社会がコミュニティ機能を維持することが大切である。**そのために、防犯関係者が、**情報発信するとともに地域住民とのコミュニケーションを取ることに努めることが必要である。**

※使用スライド（抜粋）

5.防犯まちづくりの課題ごとに活性化のポイントを考える（RISTEX調査から）

①参加者の固定化・高齢化（引き継ぎ）＝参加者の拡大

☞①情報発信が大事

・・・住民が活動を「知っていること」＝孤立感を薄める
→ 活動への意欲を高める

☞ ②やりやすいことから依頼する

・・・軽いことから徐々に大きな負担のかかる依頼へと進むと、受け入れられやすい(Foot-in the-door technique)

☞ ③メンバー間のコミュニケーションを確保する

・・・活動の後の交流、食事会→これがもうひとつの動機づけになることもある

②意欲低下・マンネリ化

☞①効果が見える活動（落書き消しなど、既述）もする＝自己効力感につながる

☞②情報発信が大事（既述）

・・・住民が活動を「知っていること」＝孤立感を薄める

③心理的、身体的、経済的負担（地域住民からの理解と協力）

☞①住民との交流が大事

・・・住民は挨拶やお礼の一言を言おう＝活動への「心理的報酬」となる
→ 活動への動機づけとなる

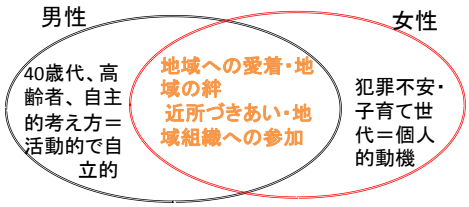
☞ ②警察や行政との協力関係を作る

・・・資金や物の援助、活動方法への教示、活動報告会などの開催（心理的報酬と動機づけ）

④組織運営（リーダー）

☞①民主的な運営

○まず、どんな人に訴えるか？
防犯活動に積極的な人とは？



リーダー層＝地域への自己効力感
警察・行政への信頼感

「安心・安全な街づくり」について、心理学的な見地から、以下の項目を中心に紹介した。

- 地域の安全(犯罪抑止)と安心(犯罪不安低減)の違い
- 街づくりと犯罪不安の払拭の必要性
- 街づくりと犯罪抑止:犯罪の基本的な捉え方と人間の心理について
- 地域づくりからの防犯の利点の大切さ
- 防犯まちづくりの課題と活性化のポイントの重要性

犯罪者の心理と行動や防犯に従事する人の意識の持ち方について分かり易く説明した。
地域づくりが防犯につながり、「犯罪を減らすためには、地域住民がまとまりをもつことが重要であり、地域社会がコミュニティ機能を維持することが大事である。」そのために防犯に携わる人々が、情報発信するとともに地域住民とのコミュニケーションを取ることに努めることが必要である。

分科会Ｉ「人材育成について」（参加数：約90名）

学生による「若者の地域活動について」の意見発表

本分科会に参加した団体における隊員の平均年齢は50～60歳で、10名から20名の構成で活動している。そのような状況の中で、継続した活動を行っていくためには、より多くの地域住民を巻き込んだ活動が不可欠といえる。特に、ＰＴＡや地元の学生を巻き込むことは、登下校時の見守り活動の活性化や新しい考えを取り入れた活動の展開が期待できるため、積極的な呼びかけが必要かと思われる。そのため本分科会では、ＰＴＡのインタビューを撮影した動画や、学生との青パトを含めた地域活動についてのディスカッションを通して、これからの青パト活動に必要な要素について話し合った。

Q.現在、青パト活動に参加していますか？その理由は何ですか？
参加していなければ、その理由を教えてください。

ＰＴＡ世代・男性（現在、ボランティアに参加していない）
仕事が忙しく、参加できない。日曜のお昼等の週末であれば、参加したいとは思うが、なかなか実行に移せていない。イベント的なものだと参加しやすい。

ＰＴＡ世代・女性（現在、ボランティアに参加していない）
幼稚園に通う子どもがいるため、見守り活動の時間帯に家を離れられない実態がある。併せて、介護等も行っているため、なかなか地域活動に時間を割くことができない。しかし、活動に直接参加できない分、金銭的負担を行いたいと考えている。

ＰＴＡ世代・女性（ボランティアに参加している）
自分の子どもが小学校に通っているため、見守り活動に参加している。事前にスケジュールが決まっているため、予定を立てやすく、ボランティア活動に対して、負担に思っていることはない。最近では、物騒な事件があとを絶たないため、より安全な環境を子ども達につくってあげたいと思っている。

ＰＴＡのインタビュー動画より抜粋

Q.地元の地域活動について知っていることや参加している活動はありますか？

神戸女子大学大学院3年生　三科 綾さん
以前は母に連れられ、炊き出し等の地域活動に参加したことはあったが、最近では、どのような地域活動があるのかを知る機会が少なくなってしまった。地域活動には、お母さんが参加してくれているという印象があり、自分が参加しなくても・・という気持ちを持っている。しかし、地域の方々とよい関係が築けるのなら、アルバイトや勉強の時間を削っても地域活動に参加したいと考えている。地域に対する愛着を深めたい。

神戸女子大学３年生　中舘 綾さん
どんな地域活動をしているのか、あまり知らない。青パトの存在についても知らなかった。
しかし、大学に貼ってあった広告を見て、一年生の時に消防団に入団した。メンバーは11名ほどである。月に１~2回ほどの活動日を楽しみにしているが、実際の活動内容は、学生のために考えられたものではないため、ちょっとお手伝いをするだけの活動でとどまっている。もっと多くの仕事を割り当てられることによって、意欲が出てくるような気がする。地域活動を通して、もっと多くの人と関わりたいと考えている。

学生とのディスカッションより抜粋

Discussion 1:
「時間がない、地域活動に参加する機会が少ない、どんな地域活動があるの？」という学生の声が多いことを知り、**広報活動の重要性**について、グループごとに話し合った。

河原 恭一　真野北学区自主防犯推進協議会 副会長　（滋賀県大津市）
自分たちの校区内にある読売新聞社と京都新聞社のご厚意により、月に一回、折り込みチラシ約3,500部を地域全体に配布していただいている。また協議会で配布したものを、更に自治会で印刷して回覧・配布していただいており、地域全体への周知を図っている。

中川 悟　地域安全協会 理事長（広島県広島市）
気球を飛ばすというユニークな地域イベントにて、青パトの展示を行い、子供たちに実際に青パトに乗ってもらうという活動を行った。こういった活動を通して、親子と一緒に青パトの活動について知ってもらえると嬉しい。

地域のイベントでの青パト試乗会

橋田 文也　西高宮校区ミニパト隊 隊長（福岡県福岡市）
小学校の各クラスに、ミニパト隊という役割を設けて、定期的にＰＴＡのお母さんやお父さんにパトロールをお願いしている。学校通信やＰＴＡ会議等にて、活動に関する説明や協力を仰ぐことにより、活動に対する理解を深めている。その他にも、回覧版に活動報告書などをつけることによって活動の周知を行っているという声もたくさん伺った。

司会者の高木より、神奈川県厚木市にあるブルーラインの facebook を活用した広報活動についての紹介があった。

しかし、**「インターネットの使い方が分からない」、「シニア層の方々は、ネット情報を見ていない」**という実情があるため、現在の自主防犯活動における主流な広報活動ではないことがわかった。

Discussion 2:
若い人達を巻き込んでいくための**大切なキーワード**について話し合った。

・**自分たちの地域における「若手」のイメージを明確化**させる。
例えば、私の地域には学生が少なく、若手というイメージが４０代後半のため、４０代を巻き込む計画を立てる必要がある。
・努力を見せること。
・イメージキャラクターの作成。
・**しゃれたユニフォーム**の制作（女性に人気がでるようなユニフォーム）
・大学等と連携し、**青パトの活動に参加することで単位認定**ができるようにお願いする。
・地域で生まれた若者に的をしぼって、声掛けを行う。
・活動に、楽しい気持ちになるような**エンターテインメント**を取り入れる。
（毎月のイベントの開催）
・**ＰＴＡの方々を巻き込む**ことが大切（福岡県の事例「ミニパト隊」はすばらしい！！！）
・発信力を強化する（息子に手伝ってもらって**ブログやFacebookを活用**したい）等

グループでの話し合い

意見の発表

分科会Ｉ　人材育成のまとめ

本分科会では、ＰＴＡや学生の声に耳を傾け、より多くの若手を巻き込んだ活動を行っていくための方法について議論が深められた。
具体的には、広報活動を強化することによって、地域活動の発信やそれらの活動への参加を呼びかける必要があるということを再認識した。広報の方法については、まず情報を伝えたい相手を明確にさせ、回覧版やインターネット等を活用しながら行うのが有効的だ。
また、仕事や学業に忙しい若手を巻き込んでいくためには、「できることから一歩ずつ」という気持ちを大切にし、気軽に参加しやすい環境をつくることや参加したい！と思わせる工夫をしていくことが必要だと考え、若者の興味をひきつけるようなキーワードについても話し合いを行い、分科会を終えた。

積極的に議論に参加する参加者

本分科会では、青パトの活動を継続していく上で、永遠の課題である活動費について話し合いを行った。本分科会に参加した団体のほとんどが、燃料費等にかかる経費のために毎月10～15万円を必要としており、さらに車検や保険料等のために貯金を行う必要があり、やはり月々約20万の経費が必要であると見込んでいる。しかし、子ども会等の町会に参加する住民が少なくなっている中、自治会からの補助金もあまりもらえないことが多い。また行政からの補助の多くは、備品等に限られているため、毎日の燃料費や車検等の経費については、自己負担で賄わなければいけない。そんな中、積極的に経費を捻出している団体の発表等が行われた。

Discussion 1:
活動費用の捻出方法について話し合った。

桝谷 佐千代　金橋小学校区地域福祉推進委員会 会長　(奈良県橿原市)
2005年から自治体やＰＴＡ等と協力してバザーを年に1~2回に開催している。初めは、各家庭にお願いをして、食器などの品物を提供してもらっていたが、売上が4万円前後と伸びが悪かったため、目玉商品をつくることとなった。目玉商品は、家庭からお中元やお歳暮でいただいた缶ビールの箱を半額で販売したり、橿原市内に住む企業の社長に掛け合い、ニット製品（百貨店だと5,000~6,000円相当の品を2,000円）を提供してもらい、販売した。上質なニット製品のため、毎回一人で5枚程度購入してくれる。こういった努力の甲斐があり、最高売り上げ額は、16万円となった。こういった売上金の一部は、車検や車の購入費等を意識して、積み立てている。

その他に、自治会と相談して資源ごみの回収を行ったり、事務所に自動販売機を設置したりして、その売上を活動費に充てているという団体があった。

以上のような事例の発表があった。しかし会場内からは、他にも以下のような意見が挙げられた。

・そういった細かいことをするのには不慣れである。
・期待した額が集まらないため、なかなかやれない。
・協力してくれる人達がいない。
・バザーは婦人会の活動費のために使用しているので、青パトには使えない。
・資源ごみ回収のお金は自治会の費用に回され、青パトの活動には充てられない。等

Discussion 2:
活動費用を集める手段について話し合った。

会員獲得について

・できるだけ活動内容、会計内容など普段の活動内容を開示し、見える活動を行っていくことで問題意識を共有してもらえるように努めることが大切である。
・非会員の立場にたって、どういうセールスアピールをすると、会員になりたくなるかを考えることが大切である。
・他人に入会を勧める前に、まずは身内から固めることが大切である。

企業寄付について

・企業のCSR活動を上手く利用し、賛同してもらう。飲料メーカーなら、活動時の飲料水提供、警備会社ならまちの安全を守る等で、協力してくれるのではないか。
・青パト車両では、企業広告を掲載することができないので、ジャンパー等にプリントして代用し企業コマーシャルを行う等の意見があった。

現在、堺市の東亜警備保障株式会社が、企業のCSRの一環として（NPO）チーム・スピリットを設立し、地域の安全活動に取り組んでいる。初めは、自転車の盗難防止活動を行い、2012年12月から青パトでの防犯活動を開始した。本事業の担当者によると、企業として、青パトを通してつくる地域づくりや安心安全なまちづくりに共感できるからこそ、支援をする魅力を感じるという。企業との連携を考えていく際にも、青パトを地域づくりの一つとして捉えたアプローチは有効かと思われる。

分科会Ⅱ　活動費用のまとめ

本分科会では、活動費用の捻出方法について話し合った。地域の協力を得るためには、地域に認知してもらえるように普段からの広報活動が必要であること。また、企業等に協力を求める際には、企業の理念やCSR活動の趣旨を理解した上で、防犯活動の必要性を説明し、同等な関係を築くことが大切であるという話をした。

また、活動費用を調達する際には、まず自分や身近な人達から資金調達を行い、それでも足りない費用について、周囲にサポートしてもらうように働きかけていくという姿勢が、支援をする側の立場としては「応援したい」と感じさせる要素ではないかと議論し、分科会を終えた。

分科会Ⅲ 「安全マップの活用について」（参加数：約65名）

梶木准教授の発表

本分科会では、地域安全マップづくりを通し、「地域の様子を知り、活動の幅を広げ新たな人員を確保していくことができるのではないか」と考え、正しい安全マップの作り方、活用の仕方について話し合いを行った。参加者からの声として、各地で安全マップや地域マップを作成しているが、始めて耳にしたという団体が多かった。しかし、実際に安全マップを作ったことがある団体は少なかったが、作ったマップは防犯活動の中で活用しているとのことだった。 そこで、安全マップとはどのようなものなのか、作り方、活用の仕方について、その取り組みや具体的な事例を基に詳しくお話があった。

「地域安全マップづくり」という取り組みは、設備機器に頼らず、防犯環境設計(危険な場所)に着目して地域を見ていくものである。例えば、地域を歩く際に、小さな子どもが好むような遊び場所や見えにくい場所等といった場所を明確化させることによって、子どもたちに危険な場所として認識を持ってもらう。
こういった取り組みは、子どもたちにマップ作りを通して、次の点を身につけさせるものとして多くの学校で取り組まれている。

・自分の身体や財産を犯罪から守る方法
・犯罪者を寄せ付けない地域づくりの方法
・犯罪を起こさせない地域づくりの方法

安全マップの例

安全マップ作りは、

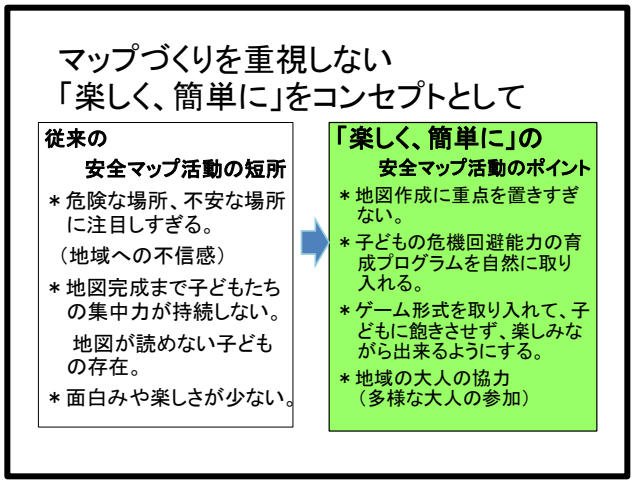
事前学習→フィールドワーク(まち探検)→マップ作り→発表会

という流れで行われる。この際、子どもだけでなく地域の大人が参加することで、よりよい活動となり、そこに地域の大人と子ども達との触れ合いが生まれてくる。

大人も子どもも、地域を歩く中で、安全だと思う場所や好きな場所を発見し、自分たちの住むまちを知り、地域に愛着が持てるようになる。また、地域の良さや様子を地域の大人に聞くことで、地域の大人とのコミュニケーションをはかる機会となる。

マップ作りでは、次の点が大切である。
・まち探検での活動を振り返りながら、子どもと大人が話し合いをして、安全マップを作る。
・まち探検で得た情報や意見を一緒に探検したメンバーで共有する。
・まち探検で発見したものの中から、いくつかを子どもと大人が話し合って決定し、発表する。
・発表会をすることで、参加者全員が情報を共有し、まちに対する知識が増える。
・マップ作りが目的ではないので、簡単に分かり易く作る。
地域安全マップを作る際に、**子どもだけでなく大人も地域を歩くことが大切**であり、大人と子どもが一緒に地域を歩くことで、**自分の住むまちに愛着**を持ってもらうことにつながる。
・**大人と子どもの視点が違うことで、大人も地域を見つめ直すことができる。**
・地域を歩く中で、子どもと地域の大人とが触れ合うきっかけになる。
・マップを作ることが目的ではなく、**作る過程が大切**であること。
・一緒に活動することをきっかけとして、コミュニケーションをとることができる。
・大人も子どもも楽しく作ることが大切で、そこにイベント的要素を入れることが大切であり、地域の大人が活躍する機会が生まれる。

※使用スライド（抜粋）



<u>楽しみながら、地域の活動に参加することが、負担の不公平感や息切れしない活動につながり新しい人員の確保にもつながっていく。</u>

分科会Ⅲ　安全マップのまとめ

本分科会では、安全マップ作りを通してより多くの人たちとの交流の機会を作り、更なる地域の絆・つながりを作ることについて話をした。具体的には、安全マップの捉え方から始まり、安全マップ作りを通して、自分たちの地域を見つめ直し、地域の人々との交流を深めていくことが大切である。地域の大人と子どもが触れ合うことで、地域コミュニティの活性化にもつながっていくことになる。子どもを通し、保護者や学校とつながりを持ち連携を深めていくきっかけや一つの手段となることを確認した。
難しく考えず、できるだけ簡単に作っていくことが大切で、そこから活動の広がりや新たな人材の確保につながっていくこと、みんなで地域の安心・安全を考えていくことになることを確認して分科会を終えた。

第二回全国青パトフォーラム

自分たちの地域や活動を見つめ直し
課題を明らかにして、解決策を考えていきましょう!!

団体名		氏名	
連絡先（任意）			

1. 自分たちの活動している地域の特徴について当てはまるものに〇をつけて下さい。

(商店街がある・小中学校が多い・大学がある・文化財がある・その他（　　））
どちらかといえば（　都市部　　農村部　）　（　　県　　市）
団体の構成メンバーで多い人は?（シニア層・主婦層・学生・若手・その他(　　））
☆自分たちの地域を一言で表すとすると（　　）な地域

2. 活動していて困っていることやその原因はどんなことだと思いますか。

【困っていること】

【原因】

3. 上記の課題の解決にむけてどのような方法を取っていますか。
あれば、できるだけ具体的にお書き下さい。

4. 事例発表や基調講演で重要と思ったキーワードは?

5. 分科会の話し合いで参考になったことをお書き下さい。

6. 困っていることを解決するために取り組んでみたいと思うことをできるだけ具体的にお書き下さい。

【考えた具体的な解決方法、アプローチ】

☆あなたの考える安心・安全なまちを一言で表すとすると
（　　）な地域

※分科会終了後に回収させていただきます。

設問１：自分たちの活動している地域の特徴（活動地域にある施設）

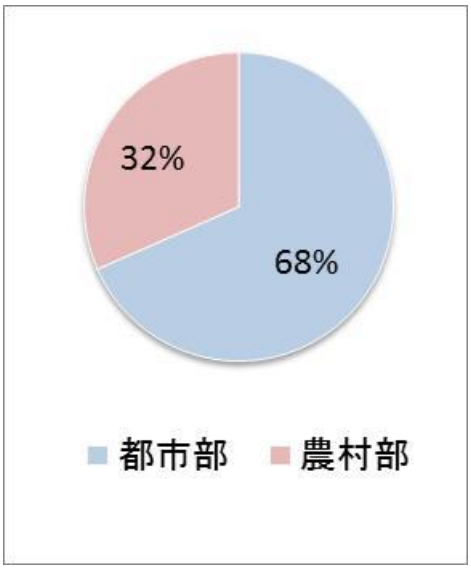
趣旨：
本フォーラムにて、地域の特色を生かした活動の重要性について話し合ったが、そういった活動の計画を考える際には、まず自分の地域の資源について再認識する必要があるのではないだろうか。

分析：
大学と連携し、地域へのボランティア活動に参加した分を単位化してもらう制度を利用することは、多くの学生を引き込むチャンスだと言える。
その他に、人が集まる地域として文化財の多い観光地や商店街等があるが、買い物客の安全を確保していくことにより、買い物客を増加させる等の目的を定めた活動計画ができるのではないかと考えられる。

項　目	計	構成
小中学校が多い	44	30.8%
文化財がある	28	19.6%
商店街がある	27	18.9%
大学がある	14	9.8%
その他	30	21.0%
計	143	100%

設問１：自分たちの活動している地域の特徴（都市部・農村部）

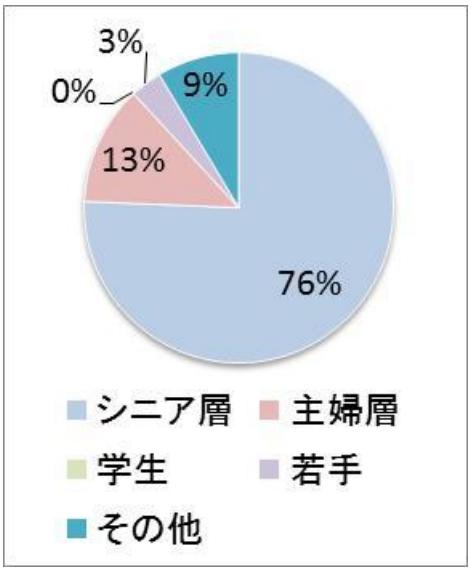
趣旨：
科学技術振興機構から刊行された「地域防犯活動に関する提言書（研究プロジェクト：こどもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立）」によると、都市型と農村型地域では、地域住民のライフスタイルや職業構成等に違いがあり、防犯意識にも違いがあると言われている。自分の地域の実情に合った活動を展開することによって、効果的な防犯活動を行っていくことができるのではないだろうか。



分析：
半数以上の団体が都市部から参加している。
都市部では、子ども会等の町会への参加が少なくなっていたり、隣近所の関係性が希薄になっていると言われている。そのため地元の既存団体と連携するよりも、NPO法人や福祉団体等と新たな連携体制を整えるのもよいかもしれない。

設問１：自分たちの活動している地域の特徴（団体の構成メンバーで多い人）

趣旨：
各構成メンバーごとに、防犯活動に携わる目的が異なっている。



分析：
シニア層の活躍が多いことが分かる。
シニア層に対するヒアリングによると、子ども達からの挨拶や感謝の言葉が生きがいになっているという。もちろん次世代の人材育成として子どもの安全を目的としたＰＴＡとの協働活動は、実行しやすいと考えられるが、こういったシニア層の方々がもっと楽しんで活動ができる環境を整えることも必要である。

設問１：自分たちの地域を一言で表すと

	キーワード
1位	繁華街・新興住宅地と住宅街
2位	のどか・閑静、高齢化・老人が多い
3位	現在、子供達の人口が増している
その他	子育て日本一を目指す、犯罪の少ない安心なまち　等

設問２：これまで活動していて困っていることやその原因はどんなことだと思いますか

たくさんの回答から大きく３つに分類することができた。

【困っていることランキング】

1. **活動資金**
→原因：行政からの援助資金不足
2. **人材確保**
→原因：PR不足、認知不足、地域でのコミュニケーション不足
3. **高齢化**
→原因：まちの少子高齢化

大阪府
堺市

◆困っていること：
40才以下の隊員が少ない。活動に熱心な隊員の多くが60才以上である。**関心がまだまだ薄いことを実感。**

◆原因：
昨年12月後半から開始された取り組みで、まだ根付く所までいっていない。若い隊員は仕事があり、平日の参加が難しいという状況がある。

青パト担当者コメント：
働いている方に、パトロール活動へ参加してもらうのは、一苦労。土日などの休日で気軽に参加できる地域イベントを手伝ってもらうところから始めて、コミュニケーションをとっていくのはどうでしょうか。それに、60才代はアクティブシニア層と言われています。どんどん60才の隊員を増やしてみるのも手かもしれません。

岐阜県
可児市

◆困っていること：
昼間（14：15～16：00）と夜間（19：30～21：30）にパトロール活動をしているが、**夜間乗っていただける方が少ない。**

◆原因：
現役世代は地域（コミュニティ）への貢献が必要と感じていない。シルバー世代も家に閉じ込もる人が多い。

青パト担当者コメント：
例えば、自治会の消防団と協力して、夜の火の見回り活動もあわせて行ってみるのはどうでしょうか。また青少年育成協議会とも連携ができるかもしれません。夜の見回りは、時間の関係で参加できない方も多いと聞きますから、時間帯について見直してみるのもいいですね。

大阪府
東大阪市

◆困っていること：
メンバーが全体的に動けていない。委員が自覚を持って取りまとめてほしい。

◆原因：
１つの原因として、何をしていいのかわからないのかなと思う点と、**役員が１年か２年で変わるのでわからないまま終わってしまうのではないかと思います。**

青パト担当者コメント：
役員が活動の趣旨や重要性について理解をすることが大切です。活動の意味について、もう一度みんなで話し合うよい機会かもしれません。

奈良県
橿原市

◆困っていること：
メンバーの高齢化が進み、新規メンバーが増えない。**ＰＴＡは入替りがあり固定しない（女性が多い）。**

◆原因：
犯罪が少ない町なので自主防犯意識が少ない。**ご主人は仕事で帰りがおそい。**

青パト担当者コメント：
青パトの活動は、独居老人の見守りや農作物の見守り等、防犯以外でも活躍できる場面がたくさんあります。現役ＰＴＡやＯＢのＰＴＡを巻き込んだ活動の展開は見込めないのでしょうか。女性は地域の力になると思います。

設問３：上記の課題解決にむけてどのような方法を取っていますか

たくさんの回答の中からそれぞれにキーワードを抜き出してみた。

課題	解決法
活動資金	会費、自治会からの援助を受ける、行政からの補助金、寄付、募金、イベントでの売上金
人材確保	◆勧誘活動 会員の懇談会、喫茶サロンなどのイベント、各種団体（青少年育成、子供会連合会、婦人部）へ依頼 ◆防犯意識の啓発 チラシ配布、防犯研修、定期的な啓発活動、あいさつ運動（オアシス運動）

岡山県
倉敷市

行政、学校、自治会、町内会、交番、老人会、婦人会、子供会等に活動への参加を働きかけている。地域のイベントへ**中・高校生の参加できる場をつくっている。環境ＮＰＯを立ち上げ協力、支援を行い、町の清掃やらくがき消しを行っている。**隊としては、青パトによるパトロール、チラシやビラ等で啓発活動をしている。

大阪府
河内長野市

地域自治会、町会（40自治会）からの協力金。**一戸当たり1年50円～100円の協力金**を1自治会からいただき活動資金としています。

沖縄県
中頭郡
北谷町

地域のイベントや祭りなどに出店し、寄付、募金及び物販や飲食などで資金造成している。

大阪府
堺市

堺市市民活動コーナー、堺市市民協働課、堺市社会福祉協議会、警察、近隣の大学などに**ボランティア募集のチラシを掲示**していただいている。

大阪府
堺市

若い隊員の活動への参加を促す為、現在休日のみ活動するチームを編成して、参加しやすくしています。
平日パトロールの回数は、週2日、昼夜で4チームが必要な為、各自月1回の参加を目標にしていたが、現状では月2～3回程度担当してもらっている。
夜の巡回チームに、若い人が数人入ってもらっている。

設問４：事例発表や基調講演で重要と思ったキーワードは？

回答の中で多かったキーワードは、

コミュニケーション・あいさつ・自然監視　でした。

その他には、「地域づくり」や「地域のつながり」「地域住民の理解」など、地域をどのようにしていきたいかという意見が大半を占めていた。また、「エンパワメントの向上」や「やりやすい事から取り組む」を挙げている方もおり、今後の活動の参考にしていただける要素がみえた。

コミュニケーションに関して・・・・

- 学生の話から、地域活動に参加してみたいと思っていることが分かった。実際、参加している方もいる中で、活動そのものに対する認知不足について、正直なお話しが聞けた。地域の色々な活動についてのPR不足を感じた。「発信力が大切」で、特に若い人達に対するPRの重要性を感じた。（大阪府堺市）
- 安定した活動を継続をしていくためには目的、目標について、地域の協力者とよく話し合って決めていけばよいと思った。（岐阜県岐阜市）
- 地域の住民に防犯活動の主旨や防犯パトロールの成果を知ってもらい、積極的に参加してもらうことが必要である。成果を広報することも大切だと思う。（静岡県袋井市）

あいさつに関して・・・

- 地域のネットワークを広げるためのヒント→個人や地域のエンパワメントの向上が必要→その為には、自己効力感と集合的効力感が必要。（大阪府泉大津市）
- 手を取り合い、支え合う安心・安全なまちづくり、あいさつ運動～オアシス運動。後継者作り、理解者を増やす、協力者を増やす。（香川県高松市）
- 住民に活動状況を広く認識させていくことから始める。あいさつ。清掃。看板の意義もわかる。（福岡県筑紫野市）

自然監視に関して・・・

- 犯罪被害を減らすと同時に効感を高める。個人や地域のエンパワメント向上。人の目による監視が大切である。（香川県小豆郡土庄町）
- 犯罪の発生現場と、危険予測場所にはズレがあるということ。(奈良県北葛城郡上牧町）
- 自然監視の重要性が大変参考になった。（大阪府南河内郡河南町）

設問５：分科会の話し合いで参考になったこと

※各分科会の内容・考察は各分科会の報告ページを参照

分科会Ⅰ：人材育成について

大阪府 河内長野市
子育て年齢者、或いは、もっと若い人達は自分の生活維持に時間をとるのが当然、無理を云うべきではない。活動者に感謝の気持があればよい。

大阪府 箕面市
参加に積極的な方は、時間の作り方、目的意識が高いです。参加されていない人は、心が動いていないので体の動きも鈍くなるように思います。こういうボランティア参加のきっかけは、衣装がかわいいとかの単純な理由でもよいかと思います。

大阪府 大阪市
若い人に好印象を持ってもらえる活動でイメージupを図る。例えばファッション性の高い衣装。自分の子は自分たちで守る＝ＰＴＡに最大限活動の幅を広げてもらう。

大阪府 大阪市
活動体をどのように作るか、その活動をどのように広めるか。若い人の参加はどうすればよいか→大学によっては単位として認められているのを利用。

分科会Ⅱ：活動費用について

大阪府 河内長野市
自前（費用個人負担）で活動している隊が結構あることに感心させられた。ボランティア精神は良いが、継続していけるかどうか懸念する。自己満足ではなく社会に認めさせる活動が必要との言葉が参考になった。

大阪府 富田林市
資金づくりはファンづくり。

大阪府 河内長野市
いかに相手に理解し受け入れて貰えるかという視点から話しをすることが重要。

大阪府 河内長野市
自販機による運営費の捻出。運営費捻出者の確保。

分科会Ⅲ：安全マップの活用について

愛知県 名古屋市
安全マップの必要性を感じる。子どもや大人を含めた多くの人が関わることで、よい安全マップづくりができる。まずは、その事を知ってもらえる様にみなさんに参加を呼び掛けてみることが大切だと感じた。

鹿児島県 出水市
危険個所マップではなく、子ども達が安心できる場所のマップが必要。歩いて情報を集める。

大阪府 大阪市
日常的には我が街を客観的に見ることはしないが、安全マップづくりを通じて、様々な目線から、立体的に我が街を理解することにより、新たなコミュニティづくりが可能になる思いがした。

岡山県 倉敷市
マップ作りは子ども目線で楽しく作成する事。防犯マップを兼ねて作成した方が良いんだなと思った。

フォーラムの終わりに・・・

設問６：考えた具体的な解決方法、アプローチ

事例報告や基調講演、分科会を経て、多くの方が活動資金面、人材確保面、その他に対し、それぞれの解決方法をご回答いただきました。回答は課題ごとにご紹介いたします。

人材育成・人材確保について

- 青パトでのパトロール時間帯をフリーにして（朝7：30～夜8：00くらいの間で）活動できる時間帯にパトロールをまかせる。子ども会やＰＴＡ、青少年指導員等の団体に**一定の日や曜日**を任せる。
- 学生の協力。金沢には雪かきボランティアを中心に**学生のまちづくり協議会**があるので、青パトへの協力も考えていきたい。
- 地域内の組織を若年化すること。老人サークル化した組織運営からの脱却。
- **Ｔシャツ**作成も一策かと思われた。
- **大学生**を誘った活動をしてみては？
  ＰＴＡとタッグを組んで活動する（小学校のサポートが不可欠）
- **企業**にも青パトを知らせ、若い人にも協力を得る。
- 自治会活動を含め、新しい住民たちへの取り込みを実施していきたい。
  子育て世代が多い為、**子どもをからめたアプローチ**を考えていきたい。
- 白黒防犯パトカーの**試乗会**を通じて若い人に活動してもらう。現在若い人が多くなっている。
- **先進地視察**や学習会。行政や企業との連携。
- 若手の増員。小学校、中学校のＰＴＡ会議に積極的に参加して、青パト隊のPRをする。

活動資金について

- **バザーや資源回収**による資金確保（学校の育友会と協力）
- 市の補助・企業の**ＣＳＲ活動**
- 現在、**自販機**の件を進行中。自治会費と一緒にお願いしたい！
- **日本財団への申請**も選択のひとつ
- ”バザーをする、盆踊りの模擬店を出す”等があったが、当防犯協会では合わない。やはり**自治会**に防犯の必要性を自覚させ**助成金**の値上げを依頼していく。

設問６：考えた具体的な解決方法、アプローチについて（つづき）

防犯啓発活動について

- **自治連合会ニュース**を発行して、青パト活動を広報していく。
- **ホームページ**にて地域の情報を発信している。
- 安全と安心は違うという話をお聞きし、安全の効果ははっきりとは分からないが、安心の効果はアンケートを取ることで、計れるのではないかと感じた。
- **イメージキャラクター**等をつくり、印象に残るステッカーはり、関心を集める。
- いろんな人達に周知徹底を計る為、広告、宣伝、回覧板を利用したい。
- **インターネット**を使った団体紹介をしてみては？
- 活動内容について地域に対して地道に広報を続けることが、活動（青パト）への理解と参加の促進につながるのではと思う。早速取り組みを行ってみたいと思う。
- **情報発信**を常に行う
- 地域交流（祭等）を通じて、住民同士が仲良くなること。
- 地域でイベントを企画し、大規模なものではなく小さな物を月1回くらいで開催し、地域で知らない人がいないようになる事を目標に活動していく。紙媒体だけでなく月1位の**メールの配信**（活動内容や参加募集）をする。
- 地域のイベントは、毎年固定の役員メンバーで設営、運営しているが、地域住民参加を求め新しい風、力を取り入れられる様にする。活動を理解してもらう為に、子どもさん以外（高齢者）にも声掛を行う。
- まず地域活動で多くの人が参加して楽しくやれる行事を行ない、**地域への愛着**を深めることが先決で、それが青パトにつながる。

その他

- **安全マップ**を町内として作成してみたい。防災訓練を通じて、各区分ごとのマップを第一に作成し、全体に拡大して行く様に考えてみたい。
- 現在、児童の下校時の見守りのための青パトを守っている小学校の先生方、自治会、ＰＴＡなどと協働し、マップづくりをしようと小学校に提案をしてみる。
- 特に住宅街に通じる道路をガイドマップにし、通学路に対する外部からの進入に注意出来るよう、実施する事の報告、標示等々を明確に出来ればと思っています。
- 特に知らぬ方とでも、あいさつをかわせられる地域コミュニティが行き届いたまちづくりを目指していきたい。**あいさつ運動**の励行。

本ワークシートは、当日受付の際に配布し、フォーラムの終了後に回収したものである。記入の時間は、約20分程度であり、多くの方はフォーラムの途中でメモとして、記入していた。回収件数は、138件（複数回答）であった。
参加者全員の回収には至らなかったものの、本フォーラムで参加者が考えたことが記録されている成果物となった。
本ワークシートは、全部で6項目あり、１～３の設問については、現状の活動についての質問とし、４～６の設問については、フォーラムに参加したことを受けて学んだことや感じたことを中心に記入してもらった。

現状の活動について

活動を実施する中で、人員の確保や活動費の面で課題があるが、解決策として各地域ごとに特性を活かした取り組みがなされていることがわかった。しかし、それらの取り組みについては、まだまだ補助金や会費に頼っている傾向があり、解決方法がマンネリ化している現状がうかがえる。

フォーラム後の変化について

特徴的な活動を行っている団体の事例発表がよい刺激になったという声が多かった。特に、ユニフォームに工夫を加えている団体、大学と連携してボランティア活動を単位化しているという例、ＰＴＡと協力し「ミニパト隊」という役職を設けることで、お母さん方の主体的な参加を促すといった取り組みについては、コメントやキーワードとして、記入していることが多かった。

最後に、本ワークシートの一番重要な設問について

「考えた具体的な解決方法、アプローチ（21ページ）」だが、フォーラムで話し合った内容や事例発表を受けて、浮かび上がったアイデアをそのまま書いてもらった。分科会の最後の10分間で記入してもらったこともあり、想定していたほどの具体性はなかったものの、フォーラムの内容を反映しているアイデアが多く、今後さらなる活動の広がりを感じることができた。
2007年から当財団では、青パト事業の支援を行っているが、「10の団体があれば、10通りの活動方法がある」と確信している。自分が楽しいと思えることを実行していくうちに、自然と協力者が増えていく。さまざまな意見の中で、弊害となる事柄があるとしても、青パトを地域づくりやまちづくりの活動の一環として捉えることにより、多くの人を巻き込んだ活動ができると考える。ワークシートには書ききれなかった計画については、引き続き協議していっていただきたい。

総　括

フォーラム終了後、各方面より多くの声が当財団に寄せられており、想像していた以上に反響が大きい。フォーラムを総括して振り返ってみたい。

・事前の参加申し込みの時点で定員の250名に達していた。当日は、飛び入り参加で来られた方が多く、総勢約280名の参加があった。
・警察庁、大阪府、大阪府警察、大阪市、堺市からの後援を得たこともあり、行政・警察関係者の方の参加が多かった。実際に分科会などで、グループに入り議論しているので、防犯団体と警察との連携の架け橋になったのではないかと考える。
・事例発表では、現場での課題に対する解決策や活動が紹介され、参加者は熱心にメモを取っていた。
・基調講演においては、心理学など科学的な研究に基づいて、地域コミュニティの中で犯罪防止に対する考え方やコミュニケーションの方法について検証された。
・分科会は、活動する上で大きな課題となっている点をテーマにかかげ、それぞれの疑問や課題について質問や意見交換を行い、解決のためのヒントを考えることができた。
・分科会の講評では、小俣氏より人材育成の重要なポイントについてのコメントがあり、今後の方向性について考えることができた。
・懇親会を設けたことで、意見交換が盛んとなり参加者の交流が深まった。

以上のことから、開催目標はおおむね達成できたのではないかと考える。

次年度は、各地区の団体の活動強化やネットワーク作りのために、各地区でフォーラムを開催していく予定である。それぞれの地域が抱える問題を分析し、より効果のある議論が行えるよう準備を行っていきたい。

（運営）
日本財団　常務理事　佐藤 英夫
チームリーダー　古川 秀雄
公益・ボランティア支援グループ　公益チーム（原田、高木、髙橋、田口）
（ボランティア）
奈良県橿原市金橋小学校区地域福祉推進委員会（辰井、今西、中島）
※敬称略

助成内容

対象: 任意団体・法人格のある団体（2年間程度の実績がある)

助成金の補助率：事業費総額の80%以内で、助成金の上限金額は130万円とする。

※対象経費は、車両購入費、塗装費、青色回転灯に係る費用等

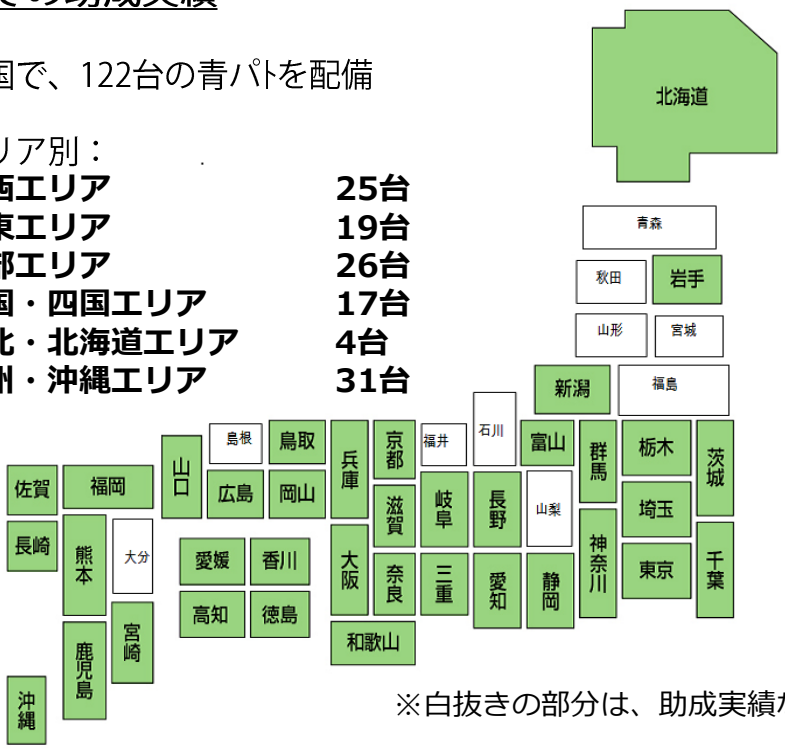
任意保険料や燃料費等は、経費として含まれない。

2012年度までの助成実績

全国で、122台の青パトを配備

エリア別：

関西エリア	**25台**
関東エリア	**19台**
中部エリア	**26台**
中国・四国エリア	**17台**
東北・北海道エリア	**4台**
九州・沖縄エリア	**31台**



※白抜きの部分は、助成実績なし。

2012年度　審査のポイント

①地域の多くの団体や 様々な人々を巻き込んで活動を行える可能性がある。

②週４日以上の活動が見込める。

③地域や団体の特性を生かした工夫や計画がある。

申請時期:

2013年6月・9月頃を予定（**2014年3月31日まで**に配備をお考えの団体）

2013年10月（**2014年4月1日以降**に配備をお考えの団体）

詳しくは、**ブログ「チーム青パト」**をご覧ください。

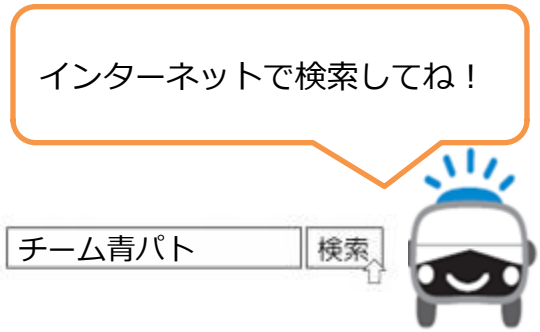
ブログ「チーム青パト」は、情報が満載！

◆青パトに関する助成事業の詳細

◆**青パトフォーラムでの資料や事業報告書がダウンロード**できる

◆全国の先駆的な活動の紹介

◆青パトに関するフォーラム等のレポートがご覧になれます。



お問い合わせ先

日本財団　公益・ボランティア支援グループ
青パト事業担当
TEL: 03-6229-5161